

# ヘンダーソン看護論の期末試験における学生の学修成果 — 自己点検評価と同僚評価 —

The Effects of Students Study on Henderson Nursing Theory  
in the Examination  
— Teacher's self-Study and Peer-Review —

金子道子\*  
Michiko KANEKO

島田久代\*  
Hisayo SHIMADA

渡辺千枝子\*\*  
Chieko WATANABE

葛西朱美\*\*  
Akemi KASAI

## 【要旨】

本研究は、看護学科1年生62名を対象に、ヘンダーソン看護論の授業の期末試験における学生の学修成果を教育研究者らが自己点検評価し、一部同僚評価を行うことにより、客観性・普遍性をもたらし、次の授業計画に役立てることを目的に行なった。期末試験の内容は、ヘンダーソン看護論における「看護目的論」、「看護対象論」、「基本的看護の概念と構成要素」、および「基本的欲求の充足」を問うものである。この設問に対する学生の解答を、「得点、記述内容、学修到達度、教育者および学生の課題と次年度への教育示唆」の観点から、同僚評価及び自己点検評価を行なった。その結果、同僚評価として、「概念を自分の解釈に基づいて説明しようとする取り組み」が、「概念理解の学修態度形成」および「基本原理を正確に身に付ける必要性の意識の萌芽」となることが考察された。基本的欲求の充足の設問は、教育担当者が自己点検評価した。「情報活用の際の情報解釈」の問題は3割、他は、8割の学生が完全解答した。基本的欲求の充足判断の際、情報解釈の困難性が示唆された。全授業で学んだことベスト1, 2, 3の自由記載からも学修成果の質的分析をした。同僚評価と自己点検評価を行って、①自己点検評価と同僚評価から得られたピアレビューの一方法 ②教育実態の把握の仕方から生じる相違 ③学生の学修習熟度の観点の相違に対する見解が得られた。

## 【キーワード】

学修成果 ヘンダーソン看護論 自己点検評価 同僚評価 期末試験

## I 緒言

平成18年度新設の本学看護学科教員全員による教育に関する共同研究として、「看護理論I〈ヘンダーソン看護論〉の教育効果 — 自己点検評価と同僚評価」の研究課題を取上げた。

自己評価 (Self — Study) と同僚評価 (Peer — Review) を行う前段階として、「ヘンダーソン看護論の期末試験における学生の学修成果」を測定し、且つ評価考察を行うこととした。当該授業科目は、金子が教授し、学修成果は期末試験で評定し、単位を与えている。

期末試験は授業科目の教育成果を評定する指標となるものであり、単位認定者である金子が作成し、採点も評定基準に基づき、金子が採点した。しかし、全試験問題の採点結果に対し、直接教授に関与しなかった島田・渡辺・葛西が評価考察することは、金子の自己点検評価の中に、同僚評価を一部導入することになり、自己点検評価に客観性・普遍性を与え、これからの授業の改善発展に大いに役立つ研究となり得る。

そこで、今後の教育上の示唆を得るために、自己点検評価に加えて、同僚評価を導入し、より一層多角的で客観性のある評価のあり方も検討すべく、この研究課題に取り組んだ。

## II 研究目的・目標

### 目的

ヘンダーソン看護論の期末試験における学生の学修成果を自己点検評価し、一部同僚評価を行うことにより、客観性・普遍性をもたらし、次年度の授業計画に役立てる。

### 目標

1. 各試験問題における学生の得点及び記述内容の点検評価を行う。
2. 学生の得点・記述内容から学修到達度を明らかにする。
3. 学修到達度からみた教育者側・学生側各々の課題を明確にする。
4. 自己点検評価と同僚評価とを行うことで、より客観性のある次年度への教育示唆を得る。

## III 期末試験

1. 試験問題と出題範囲 (別紙、「平成18年第1年次前記試験 看護理論1・レポート課題」参照)  
試験問題はシラバスに従って、前期に教授した範囲のうち特に重点的テーマから次の4問を出題した。

問題1; ヘンダーソン看護論における看護目的論を問う

問題2; ヘンダーソン看護論における看護対象論を問う

問題3; 基本的看護の概念と構成要素を問う

問題4; 基本的欲求の充足を問う

各問にはさらに中項目が設定されている。

2. 試験形式・方法

・全問筆記解答方式

・解答用紙: A3版2枚、設問毎に解答に必要なスペースを設け、スペース内に記述することを条件付けている

・前期授業終了後1ヶ月間、各自問題に対し、復習を主にしたレポート形式で行った。

3. 設問出題の意図

各設問出題の意図は、別紙「出題の意図及び配点への考慮点」を参照のこと

#### Ⅳ 研究方法

##### 1. 期末試験の自己点検評価者及び同僚評価者

1) 問題1 「ヘンダーソン看護論における看護目的論」	同僚評価者	渡辺千枝子
2) 問題2 「ヘンダーソン看護論における看護対象論」	同僚評価者	島田 久代
3) 問題3 「基本的看護の概念と構成要素」	同僚評価者	葛西 朱美
4) 問題4 「基本的欲求の充足」	自己点検評価者	金子 道子
5) 自己点検評価、同僚評価の考察		上記 4名

\*各研究者が易理解度の高い問題を選択した。

\*問題4は、思考過程・判断能力を問うもので、教育主体者が行った。

##### 2. 学修成果の分析・考察方法

<設問の共通分析方法と分析観点>

- 1) 各設問における得点
- 2) 各設問における高得点状況とその理由（正解との対比）
- 3) 各設問における低得点状況とその理由（正解との対比）
- 4) 各設問における教育の意図と達成度
- 5) 今後の教育への反映

##### 3. データ分析の妥当性・信頼性

- 1) 各問分析基準は、教育主体者の金子が全問の出題意図・完全解答・配点を示し、その基準に基づいた。
- 2) 各問分析データの妥当性は、研究者4名による相互検討で客観性を確立することに拠った。
- 3) 教育主体者からのスーパーバイズにより分析、考察の妥当性をはかった。

#### Ⅴ 本研究の独創性

1. 教育成果評価に自己点検評価と同僚評価とを実験的に試行したこと
2. 看護学科第1回生の教育評価であること
3. 看護学科の全専任教員が本研究に参画する予定で、本研究に関連した研究を同時に行ったこと

#### Ⅵ 研究の倫理的配慮

本学看護学科1年次学生の看護理論1の期末試験結果を研究対象とする事から、「授業評価及び期末テスト結果活用依頼書」「承諾書」を作成し、看護学科の専任教員で検討し、了承のうえ、同意・承諾を学生62名全員から得ている。なお、経過途中における同意・承諾の取消者もいなかった。

#### Ⅶ 結果・考察

##### 1. 試験総得点の結果

看護理論Iにおける試験の総得点の結果は図1総得点分布に示した。また、平均点は85.8点(標準偏差値±9.83)、最高点100点、最低点60点であった。

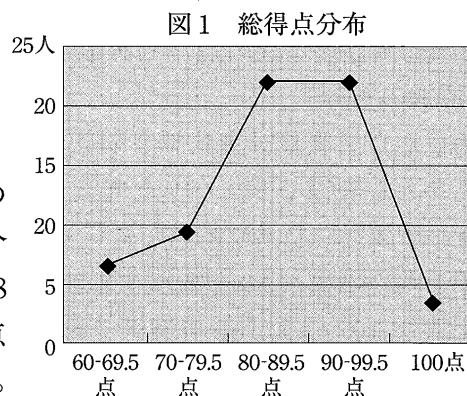


表1 得点結果

平均点(SD)	85.8(±9.83)
最高点(人数)	100(3)
最低点(人数)	60(1)

## 2. ヘンダーソン看護論における看護目的論（設問1） 同僚評価者 渡辺千枝子

## 1) ヘンダーソン看護論における看護目的論に関する得点結果

ヘンダーソン看護論における看護目的論に関する得点結果は、表2の通りである。

表2 設問1「ヘンダーソン看護論における看護目的論」に関する得点結果

問題 No.	設問	配点	得点と人数 (左側;得点 右側;人数)	出題の意図及び配点への考慮点
1-1	「看護の基本となるもの」の本の中で看護目的論について述べている本文を抜粋しなさい。	10	10 - 61 5 - 1	①看護目的論とは看護の目的を明文化及び論述したものであることが理解できているか。 ②ヘンダーソン看護論において看護目的論が原著から理解できているか。 ③「看護目的論」という概念は、ヘンダーソン看護論には出てこないため、授業の中と「看護論と看護過程の展開」の本中で解説したことが理解できているかどうか。
1-2	ヘンダーソンの述べている看護目的論について①講義②解説書「看護論と看護過程の展開」③講義関連配布資料(プリント)④その他参考文献を活用して具体的にどういうことか説明しなさい。	10	10 - 35 9 - 5 8 - 9 7 - 10 5 - 1 3 - 1	①設問1が説明できるか。 ②看護目的論の概念説明できるか。 ③この概念説明は講義中に配布資料に記載されているものを正解とするが、解説書に記載された内容でもよしとした。 ④正解の一部が適切な表現で記載されていることにより満点を与える。 ⑤設問1と関連のない内容の解答は減点する。

## 2) 得点から明確になった学修到達度

得点から明確になった学修到達度は次の通りである。

## (1) 設問1-1「看護目的論の抜粋」

- ①設問1は、指定教材から必要部分を抜粋することを要求されているものであり、授業中に解説されたことが記憶できていると考えられる。学生62名中61名が10点満点であり、目的論を今後自分なりに解釈していくための基礎が構築されてきている。
- ②この設問において1名の学生が10点満点中5点であるが、設問2において目的論を具体的に説明が要求されるものが10点満点であるため、この学生は目的論に関する知識に大きな問題はないと判断してよいと考えられる。

## (2) 設問 I - 2 「看護目的論の説明」

①設問2において10点満点の学生は35 / 62名 (57%) である。

ここでは、看護の目的論を学生が説明することが要求されている。これは、概念として捉えることから、専門職としての看護独自の機能、自立の概念、健康の概念と看護の概念、という多角的な視点から説明されることが必要である。

②ここでは、ヘンダーソンが言う基本的看護について述べられていることが必要である。10点満点の学生は、専門職としての看護独自の機能、自立の概念、健康の概念と看護の概念に言及して多角的に述べていることができる。

③9点の学生は5 / 62名 (8%) であった。これらの学生は、目的論の概念として多角的に基本的看護、自立の概念に言及しているが、文章の構成に問題があり、不適切な表現となっていたり、明らかな記述ミスとみられるものがあり、ケアレスミスによる減点と判断され、目的論は10点満点の学生と同程度の理解ができていると考えられる。

④9点以上の学生と8点以下の解答には内容に違いがみられた。そこで、8点以下の学生が解答した概要を、表3に示す。これ以外の項目に関する記述もみられたが、設問と関係がないと判断したものは省いた。また、学生の表すニュアンスを損なわないため、そして学生の表現能力に応じて減点対象となっていることから、学生が試験に記載した文脈をそのまま用いて表に示した。そのため、いずれかの概念に示されていれば、文脈の再掲をしていない。

⑤8点の学生は、9 / 62名 (15%) である。8点の学生は、「専門職としての看護」に言及している学生が9名中5名おり、それを独自の機能として捉え、専門性と看護独自の機能を結びつけることができていることから、専門職への意識の萌芽がみられると考えられる。この他に1名の学生が専門看護師という表現であったが、専門職と混同している可能性がある。

⑥8点の学生の中にも9名中4名の学生は、自立の概念についても記述があり、目的論を多角的にみることができている者もいる。しかし、9点以上の学生と比べて、基本的看護ケアに対する説明が曖昧で基本的欲求と看護を明確に結びつける表現が不足していた者が多い。

⑦8点の学生の中で基本的看護について述べられていたにもかかわらず、「～の不足を補うのが看護の方法。」といった不適切な表現により減点対象になったと思われる学生もいる。

⑧7点の学生は、10 / 62名 (16%) であり、看護対象者の健康の維持増進、健康の回復、安らかな死と基本的欲求の充足についての説明が不足し、多面的に捉えることができない傾向がみられる。

⑨7点の学生10名の中で、『専門職としての看護』に言及した者が3名おり、専門職という意識の萌芽が認められる。

⑩7点の学生の文章表が繰り返してであったり、整合性に欠けていることによる減点も否めない。

⑪5点以下の学生は5点が1 / 62名 (2%) 3点が1名 (2%) と2名いるが、記述の内容が、健康の維持増進、健康の回復、安らかな死または、基本的欲求にのみ限定さ

れており、目的論として多面的に理解できていない可能性がある。

- ⑫5点以下の学生は、総得点も76.5点、69点と平均点に及ばないことから、今後の看護援助論、臨床看護援助論、臨地実習において特にフォローアップしていく必要があると考えられる。

表3 模範解答と8点以下の学生の解答

点数	専門職「看護」独自の機能	自立の概念	健康の概念と看護の概念
模範解答	健康の維持増進、健康の回復、安らかな死に資するよう、その人が自分の基本的欲求を可能な限り自力で充足できるように、その人を援助する。その援助は基本的看護と概念化している。	自力で基本的欲求を充足しているか。自力で基本的欲求を充足しているか。体力、意志力、知識の不足があっても他者に援助を求め感謝できるのも自立とみる。	疾病を持つ病人には疾病の回復、疾病の共存、平和な死に向けその人の基本的欲求の充足を助ける。疾病のない人には、健康の維持増進のために、その人の基本的欲求の充足を助ける。
8	ヘンダーソンは、看護師独自の機能を基本的看護ケアといった。看護独自の機能は、個人を助けること、健康あるいは健康の回復（あるいは安らかな死）に資する行動をすることを援助することにある。	記載なし	記載なし
8	専門職としての看護独自の機能は、健康維持・回復、あるいは安らかな死のために、病人であっても自力で基本的欲求の充足ができない部分を援助すること。	記載なし	記載なし
8	看護独自の機能は、個人を助けること、健康あるいは健康の回復（あるいは安らかな死）に資する行動をすることを援助することにある。	専門職として、病人であっても自力で基本的欲求の充足ができない部分を援助することであり、患者は、体力、意思力、知識を具備されている必要がある。それで、不足のある場合は不足を補うのが看護の方法。健康に資する行動を意識して基本的な欲求を可能な限り自力で充足するための行動。	記載なし
8	健康の保持・増進や回復、安らかな死をむかえられるよう、その人の基本的欲求をその人が可能な限り自分の力で充足できるように援助したり、疾病を持つ人には、疾病の回復、疾病との共存、その人が平和な死に向けて、その人の基本的欲求の充足を助けること。	記載なし	記載なし
8	人間が持つ基本的欲求で、その人が自分の力だけではその欲求を満たすことができない時に、看護師が情報収集をし、その患者の状態から看護診断をし、専門的に援助する。	その人ができるだけ早く自立できるように、その人個人の体力、意思力、知識をその人にとっての自立の状態にもっていくように援助することも看護の役割。	記載なし
8	看護独自の機能は、個人を助けること、健康あるいは健康の回復を回復させるための援助が目的で基本的欲求の行動を援助すること。	記載なし	記載なし

点数	専門職「看護」独自の機能	自立の概念	健康の概念と看護の概念
8	体力、意思力、知識のいずれか、又は全体的に不足があり、自分の力だけでは基本的欲求のいずれかに不足が生じた時に個人の助け、健康の維持・増進、健康の回復、安らかな死のために個人を援助できるように資するのが専門看護師独自の機能である。以上が看護目的論である。	記載なし	記載なし
8	専門職としての看護独自の機能は、健康の維持、健康の回復、安らかな死のために、病人であっての自立で基本的欲求の充足ができない部分を援助することにあります。	自立の状態は個人の体力、意思力、知識により異なるが、その人にとっての自立の状態にもっていくように援助し、また、それで不足の場合は、その不足を補うのが看護の方法である。記載なし	記載なし
8	看護独自の機能は、個人を助けること、健康あるいは健康の回復（あるいは安らかな死）に資する行動をすることを援助することである。専門職としての看護独自の機能は、健康の維持、健康の回復、あるいは安らかな死のために、病人であってでも自力で基本的欲求の充足ができないのを援助すること。	自立の状態は、その個人の体力、意思力、知識によって異なるが、その人にとっての自立の状態にもっていくように援助し、また、それで不足のある場合は、その不足を補うのが看護の方法である。	記載なし
7	日本の看護専門職の果たす独自の機能は、病気であろうとなかろうと、看護対象者が健康の維持・増進あるいは健康の回復（あるいは平和な死）に資するような行動をすることを援助することである。	その人が必要なだけの体力（基本的欲求に関して違うもの）を意思力（自分の力でつくりあげていくもの）と知識とをもっていれば、これらの行動（自分のできるところまでやりたいと思うこと）は、他者の援助をえなくても可能であろう。この援助は、その人ができるだけ早く自立できるように仕向けるやり方である。	記載なし
7	専門職「看護」独自の機能として、健康の保持・増進、健康の回復、安らかな死に資するようその人が自分の基本的欲求を可能な限り（自分の最大の力を発揮して）自力で充足できるようにその人を援助することである。いわば、個人の基本的欲求の未充足の状態に関して、充足していけるよう、その個人を援助することである。	記載なし	記載なし
7	看護師の専門職のはたす独自の機能は、健康障害があらうとなかろうと、病人、健康人が健康あるいは、健康の維持・増進、健康の回復（あるいは平和な死）になるように行動するのを援助すること。	その人が必要なだけの基本的欲求に関係する体力と意思力と知識を持っていれば、これらの行動は、他者の援助を得なくても可能であろう。この援助は、その人ができるだけ早くその人のできる最大限最善の自立ができるように仕向けるやり方で行なう、ということ。	記載なし
7	健康の維持増進、健康の回復、安らかな死に資するよう、その人が自分の基本的欲求を自分が出せる最大の力を発揮して自力で充足できるようにその人を援助する。	記載なし	記載なし

点数	専門職「看護」独自の機能	自立の概念	健康の概念と看護の概念
7	専門職「看護」独自の機能とは、健康の維持・増進、健康の回復、安らかな死に貢献できよう。看護対象者が自分の14の基本的欲求を可能な限り自分の力で充足できるようにその人を援助すること。また、専門職「看護」独自の機能は世界共通である。	記載なし	記載なし
7	患者が日常の生活パターンを保つのを助けること。ふつうは他者に助けってもらわなくてもできる呼吸、食事、排泄、休息、睡眠や活動、身体の清潔、体温の保持、適切に衣類を着ける等々の行動を助けること、基本的欲求を満たそうとする行動を援助することである。	記載なし	記載なし
7	健康の維持・増進、健康の回復、あるいは安らかな死のために、健康であっても病人であっても自力で自分の基本的欲求の充足できない部分を援助することであり、その個人が基本的欲求を充足するために必要な体力、意思力、知識を持っている場合はよいが、病状、状態によって体力、意思力、知識の回復には限界がある。	そのため、その限界の状態では精一杯の努力をして基本的欲求を充足させようとしている状態は、その人の自立だと捉え、それで不足のある場合はその不足を補うということ。	記載なし
7	病人であっても、健康人であっても、健康の維持・増進あるいは安らかな死のために自分で自分の基本的欲求が充足できるように援助することである。	基本的欲求を充足させるためには、体力、知力、意思力が必要になるが、疾病の症状により、自力で充足が不可能な場合は看護師が援助し、充足を助ける。	記載なし
7	看護独自の機能、すなわち看護婦でなければできない専門職としての看護独自の機能が、健康の維持、健康の回復、あるいは安らかな死のために、病人であっても健康人であっても自力で基本的欲求の充足ができない部分を援助するということ。	記載なし	記載なし
7	看護独自の機能は、個人を助けること、健康あるいは健康の回復、あるいは安らかな死のために、病人であっても健康人であっても自力で基本的欲求の充足ができない部分を援助することにある。看護の援助の基本は個人を援助することにある。	自立の状態はその個人の体力、意思力、知識によって異なるが、その人にとっての自立の状態に持つていくように援助し、また、それで不足のある場合は、その不足を補うのが看護の方法である。	記載なし
5	病人であれ、健康人であれ、その対象となる人の健康の維持・増進、健康の回復、平和な死のために援助すること。	記載なし	記載なし
3	病人であっても、健康人であっても自力で基本的欲求の充足ができない部分を援助すること。	記載なし	記載なし



### 3) 学修到達度からみた教育者側・学生側個々の課題および次年度への教育示唆

#### (1) 学生の課題

学生が学修したヘンダーソン看護論における看護目的論という概念部分を、指定された図書から抜粋できるということを、直接この目的論の理解ができたと判断することは難しい。しかし、「概念を理解する」あるいは「概念を理解しようとする」という態度は、それを学生自身の意識下におくことによって、個々の学生自身の解釈につながっていくと考えられる。そのため、指定された図書から抜粋できるということは目的論を今後自分なりに解釈していくための基盤が形成されつつあるということができ、看護専門職者の基本的態度として重要なことである。

設問2においては、看護の目的論を学生が説明することが要求されている。これは専門職としての看護独自の機能、自立の概念、健康の概念と看護の概念、という多角的な視点から説明することが必要であり、学生40/62名(65%)が9点以上の得点であったが、逆に、30%以上の学生は、この問いに戸惑いを感じ、概念の説明を具体的にこなすということの難しさを学生は経験したと考えられる。また、理解力の不足に通ずるものとして学生の問題文の読解力、表現能力、文章構成能力の未熟さも学生の課題としてあげられる。

#### (2) 学生の課題から引き出された教育者の課題

学生の抱える課題が教育者側の課題と次年度への教育的示唆に連動してくるが、配点への配慮、基準として学生の問題文の読解力、表現能力、文章構成能力の未熟さも減点対象となっている。概念を解釈し表現することは高等教育で要求される能力となる。そのため、「概念を理解する」あるいは「概念を理解しようとする」という態度を養うという教育者の態度は引き続き必要である。そのために、指定した教材から概念に直接触れさせ説明する努力を導き出すというステップを踏んでいくこの方法は評価されると考えられる。そして、学生各々の解釈で表現される創造的思考を育む努力も継続されることが望まれる。

また、学生の表現能力、文章構成能力の未熟さという基礎学力の不足も確認される。それを改善するための具体的方策、基本的文章能力を上げるためにいかに多くの文章に触れる機会を作るか、また、文章に触れることに興味を見出すようにするか等、専門教育とともに、いわゆる看護関連科目として位置付けている一般教養科目との補完も必要となってくる。

### 3. ヘンダーソン看護論における看護対象論 (設問Ⅱ) 同僚評価者 島田 久代

#### 1) 設問「ヘンダーソン看護論における看護対象論」に関する得点結果

「ヘンダーソン看護論における看護対象論」に関する得点結果を表4に示した。

表4 設問Ⅱ「ヘンダーソン看護論における看護対象論」に関する得点結果

問題No.	設問	配点	得点人数、 左側得点－右側人数 (%)	出題の意図及び配点への考慮点
Ⅱ (全体)	「看護の基本となるもの」では、看護の対象である人間をどう捉えているか説明しなさい。	30		ヘンダーソン看護論における看護対象論を問う。
Ⅱ-1	ヘンダーソンは、「人間を『14の基本的欲求』をもって生活している」捉えています。14の基本的欲求はどのような欲求か、説明しなさい。	5	5 - 34 (54.8) 4 - 16 (25.8) 3 - 10 (16.1) 2 - 1 (1.6) 0 - 1 (1.6)	①「看護対象論とは」が理解できているかどうか ②「14の基本的欲求」の説明が看護対象論の説明とみなす。 ③「基本的欲求」の概念の説明が正確にできているか ④基本的欲求の性質について3点あげ、更に各々の説明がなされているか ⑤5点満点の条件は概念定義をした時。それに相当した説明は3点 ⑥基本的欲求の性質、ヘンダーソンの文の説明があると2点与えている。
Ⅱ-2	14の基本的欲求の1つ1つをヘンダーソンと同じ順番で挙げ、それぞれをスペース内で説明しなさい。	25	25 - 16 (25.8) 24 - 15 (24.2) 23 - 8 (12.9) 22 - 7 (11.3) 21 - 2 (3.2) 20 - 3 (4.8) 18 - 1 (1.6) 17 - 2 (3.2) 15 - 2 (3.2) 13 - 2 (3.2) 12 - 3 (4.8) 0 - 1 (1.6)	①ヘンダーソンの順番で挙げているか ②1つ1つの欲求の説明の為に イ)「看護の基本となるもの」第1章と第3章をよく読んで、まとめているか ロ)金子の解説書を読んでいるか、更に他を参考に行っているかを期待していた。 ③学修したことが簡潔にまとめられているか ④正解のポイントがおさえられているか ⑤①、②ができていれば20点を与えている。

## 2) 得点から明確になった学修到達度

「ヘンダーソン看護対象論」における問題に関して得られた得点結果から、設問毎に学生の学修到達度を明確にすると、次のことが言える。

## (1) 「14の基本的欲求とは、どんな欲求かを説明しなさい。」の設問に関する学習到達度

この設問の意図は、金子によると次の点にある。

- ①ヘンダーソンの示した順番（生命維持に直接関わる順位性）で、14の基本的欲求を挙げているか
- ②各欲求の説明のために次のことがなされているか  
イ)「看護の基本となるもの」第1章と第3章をよく読んで、まとめているか

- ロ) 金子の解説書を読み、更に他の参考書を読んでまとめているか
- ③学修したことが簡潔にまとめられているか
- ④正解のポイントがおさえられているか (模範解答参照)

得点結果と上記設問の意図とを照合した結果、次のことが考察できた。

- ①当設問における得点状況における全体的結果では、結果の平均値は、25点満点中21.7点であった。
- ②25点満点の学生は25.8%で、平均値22点以上の学生は、全体の74.2%を占めていたことにより、14の基本的欲求を順番に挙げることに、それらの説明する内容の理解は、ほぼ深まり到達されていると考える。
- ③25点満点の学生は25.8%、24点は24.2%、22、23点は24.2%を占め、それらの割合がほぼ等分3層をなしていることがわかった。全体の7.5割弱が1点違いで3層をなしているといえる。
- ④学生の記述した14の基本的欲求それぞれの説明内容を点検、確認してみると、次のことがいえる。
- イ) 満点の学生(25.8%)は、14の基本的欲求についてヘンダーソンの順番で解答するとともに、その説明が模範解答と同じく十分な内容であった。
- ロ) 24点の学生(24.2%)は、14の基本的欲求については模範解答と同じくヘンダーソンの順番で解答していたが、その説明の内容表現が模範解答よりは不足があり、1点減点対象となった。
- ハ) 22～23点の学生(24.2%)は、ヘンダーソンの順番で解答しているが、基本的欲求の説明において模範解答の内容よりも説明が一部簡単となっていたり、基本的看護と区別できにくい表現になっていた。
- ニ) 20～21点の学生(8%)は、ヘンダーソンの順番で解答しているが、基本的欲求の説明がなされているところと、基本的看護の説明になってしまったところが多くあり、減点となった。
- ホ) 13～18点の学生(11.2%)は、ヘンダーソンの順番で解答しているが、低い点数ほど基本的欲求でなく、基本的看護についての内容記述分の割合が増していた。このことは、基本的欲求と基本的看護の概念の分離ができていなかったといえる。
- ヘ) 12点の学生(4.8%)は、基本的欲求は順序よく挙げていたが、基本的欲求の説明が、すべて基本的看護についてであった。このことは、概念の逆転が生じていたといえる。
- ト) 0点の学生1名は、解答内容が基本的欲求でなく、すべて基本的看護を挙げて説明していた。このことは、基本的欲求と基本的看護の概念区別が全くできていないといえる。
- ⑤総括
- イ) ほぼ全員が14の基本的欲求を生命維持に不可欠な順序性で、ヘンダーソンと同じ内容で理解できていたと評価できる。
- ロ) 7.5割弱の学生は、基本的欲求の説明を教科書、参考書、講義等を参考に理解し、表現している。

ハ) 2.5割強の学生は、基本的欲求と基本的看護の概念の混同がみられる。これは、これからの看護診断及び実践のために考えなければならない課題である。

### 3) 学修到達度からみた教育者側・学生側個々の課題および次年度への教育示唆

この設問の教育的意図は看護の対象である人間を14の基本的欲求をもって生活し、社会生活を営み、成長発達する存在として、理解できているかを試すことにあった。また、基本的欲求の概念だけでなく、基本的欲求の性質を理解することで、人間一般から個別性に迫る方法をも理解していく設問でもあった。

看護対象論における基本的欲求の概念と14の基本的欲求の説明では8割の学生は学修されていたので、その教育のねらいはほぼ到達されたと考えられる。

この設問の課題としては、基本的欲求の概念的説明は表現できても、基本的欲求の主要な3性質を説明することで、それらがどのようなことを意味するのかが捉えられていないことになると考える、何故半数を占める学生が、基本的欲求の性質について捉えにくかったかを考え、次年度においては、基本的欲求の性質について、基本的欲求の概念と結びつけて理解度を増す教育的工夫が必要であると考ええる。

2割の学生が、基本的欲求と基本的看護の概念を混同していた。2割の学生のためにも、次年度は、欲求と看護の相違と関連を教育する必要がある。

17点以下の4名の低得点者には、基本的欲求の程度、順序性、概念説明及び基本的欲求の性質等について、最もベーシックで理解していなければならないことを、完全に理解させる必要がある。このことは今後の課題である。

また、高得点と低得点の学生の点差の意味するものは、基礎的理解力に加えて、学生の理解を深める自らの努力の差の違いがあると考ええる。理解力の低い低得点の学生に対する学習の動機づけと学習の方法の修得も必要となる。

更に、基本的欲求の概念説明の表現はできても、半数の学生が基本的欲求の主要な3性質を説明することが出来なかった結果と合わせると、教育者側は、基本的欲求の主要な3性質を理解した上での基本的欲求の概念理解として教授したつもりが、学生側には、そのことが充分にとらえられていなかったと考えなければならない。このことは、得点の評価から到達度を評価する方法ではじめてみえてきたことで、今後の到達度評価の重要点として、研究者自身の学びとなった。

## 4. 基本的看護の概念と構成要素（設問Ⅲ） 同僚評価者 葛西朱美

### 1) 設問Ⅲ「基本的看護の概念と構成要素」に関する得点結果

設問Ⅲ「基本的看護の概念と構成要素」に関する得点結果を以下の表に示した。

### 2) 得点から明確になった学修到達度

(1) 上記1)の得点結果および学生の解答状況から明らかになったことを以下に記す。

設問Ⅲ-1「基本的看護の概念の説明」

\*基本的看護の概念は、以下の4要素である。ア. 健康の維持・増進、健康の回復、安らかな死のために行なう イ. その人が基本的欲求を可能な限り充足できるような方向性で行なう ウ. 自力で充足できない基本的欲求の未充足の部分その人になりかわって行なう エ. 基本的看護を行なうことにおいて看護師は専門職である（模範解答資料参照）

表5 設問Ⅲ「基本的看護の概念と構成要素」に関する得点結果

問題 No.	設問	配点	得点と人数 (左側;得点 右側;人数)	出題の意図及び配点への考慮点
Ⅲ-1	「基本的看護とは」、基本的看護の概念について①講義②看護論と看護過程の展開③講義資料その他を活用して説明しなさい。	5	5 - 11 4 - 3 3 - 16 2 - 29 1 - 2	① 設問1のことがここで再掲されてもよい。 ② 正解は主としてプリントでまとめたことが書かれていればよい。 ③ 概念定義のみならず、包含している意味が述べられていればよい。
Ⅲ-2	基本的欲求と基本的看護の関係について述べなさい。	5	5 - 22 4 - 13 3 - 4 2 - 17 1 - 5 0 - 5	① プリントでおさえた内容が述べられていることがのぞましい。 ② このことは講義でも何回か教えた。ノートにまとめられていることもよい。
Ⅲ-3	基本的看護の構成要素を挙げなさい。	5	5 - 54 4 - 0 3 - 0 2 - 1 1 - 0 0 - 7	① 「看護の基本になるもの」第三章に述べられていることをあげる。 ② 形式的にあげることもできるが、形式的であるか否かは上の1, 2の書き方で学習の程度を推測する。

- ①満点をとれた学生は11 / 62名 (18%) であった。その解答状況は、模範解答の1～4要素全ての内容が正確に入っている者5名と、模範解答の4要素のうち2ないし3項目が正確に入っている者が6名であった。模範解答のうち2つ以上の項目が正確に含まれている事が満点状況である。
- ②最低点 (2点) をとっている者は、29 / 62名 (47%) である。その解答状況を見ると、模範解答の4要素のうち、(1)～(3)の要素を一部省略して書いている者が19名、(3)の要素を省略して書いている者6名、書いている文章がわかりづらい又は充分理解して書いていないと思われる者3名であった。
- ③出題の意図は、前表6の①～③の如くであるが、そこから以下3点のねらいが読み取れた。すなわち ア. 設問Ⅰのヘンダーソン理論の看護目的論を理解していれば解ける設問であることから、単なる暗記でなく学生の個々の理解度を計るねらい  
イ. プリントでまとめた4つの要素が学修されているかを図るねらい ウ. 概念定義のみならず包含している意味が理解されているかをみるねらい の3点である。以下ア.～ウ. 毎に到達度を述べる。

- ア. 単なる暗記でなく学生個々の理解力を伸ばすという点は、この1ヶ月間の学生個々の課題学修そのものがものを考える力の重要性への気づきに貢献したかと思うが、結果として達成が難しかったといえる。
- イ. 4つの要素の学修という教育の意図は、正解率から厳密な言い方をすると2割を切っていることより達成度が低くなっている。
- ウ. 包含している意味の理解とは、基本的看護の概念の4要素の正確な理解が条件となる。正確な理解という点では、低いといわざるを得ない。

(2) 設問Ⅲ-2「基本的欲求と基本的看護の関係の言及」

\* 基本的欲求と基本的看護の関係は以下の3要素である。ア. 基本的欲求の未充足に対する基本的看護 イ. 14の基本的欲求に相応する14の基本的看護 ウ. 患者-看護師関係の成立 (模範解答資料参照)

- ① 満点の学生は、22 / 62名 (35%) である。その解答状況は、基本的欲求と基本的看護の関係の3つの要素がすべて入っている学生がほとんどである。
- ② 再三にわたり授業でも教員が強調していたこと、欲求に対してそれを充たすために看護があるという考え方は理解がしやすかったと推測できるが、その割には少し得点率が低い。初学者である学生の能力の限界という全体の傾向が示された。
- ③ 0点から2点の学生は27 / 62名 (44%) である。その内訳は2点が17名、1点が5名、0点が5名である。その解答状況は、模範解答の3要素のうち1要素しか入っていない解答や基本的欲求と基本的看護の関係を問うているのに、それぞれの定義を述べるにとどまり両者の関係まで言及されていない解答などである。
- ④ また、模範解答と似たような表現をしていますが、文章が繋がっていないかたり、日本語として意味が通じない解答或いは本人が理解して書いていないと思われる解答も減点の対象となっている。
- ⑤ この設問でのねらいは、基本的欲求と基本的看護の関係について、学生の理解の上に立って述べられていることが求められている。上記①~④の解答状況で既に述べたが、2つの概念を正しく理解したという前提で両者の関係の理解を問うことで、さらに深い理論の理解をねらっている。5点満点の学生が35%いるということは、3割強の学生が達成したといえる。逆に0点から2点の学生が全体の43%占めるということは、半分近くの学生はこの点の理解が不十分であったということが言える。

(3) 設問Ⅲ-3「基本的看護の構成要素」

- ① 54 / 62名 (86%) の学生が満点である。ほとんどの学生は14の構成要素を正しく書いている。
- ② 0点或いは2点しか取れていない学生は8 / 62 (13%) である。これらの学生の解答状況は、以下のものであった。基本的看護の概念定義を書いている者、基本的看護が14の構成要素で構成されることまでの記載に止まり具体的に14の要素を挙げていない者、基本的欲求の構成要素を挙げている者、構成要素が4で終わっている者〔この学生は2点得点している〕、以上4つの欠点状況があった。前3つの状況は、設問の意味が十分に理解できていないことが主な理由と考える。最後の欠点状況は、単純ミスかあるいは基本的看護の構成要素が14ではなく4であると理解しているかどちらかであろう。
- ③ 4要素しか挙げていない1名の学生を除くと、問題の意味を充分理解できない学生 (0

点を取った学生) 7名以外の54名は正解を書いている。この設問の第一義的な教育の意図の達成度は非常に高い。

- ④第2点目の教育意図である「この項目に形式的に14の構成要素を挙げるだけでなく、設問Ⅲ-1、Ⅲ-2の書き方も含めて見ることによって学生個々の学習の程度も推測する」については、形式的に構成要素を挙げるより以前の問題として、設問の意味の理解不十分という問題があり、ここでの学修の程度の推測は難しかったと考える。

#### 1) 学修到達度からみた教育者側・学生側個々の課題および次年度への教育示唆

上記1) 2)の結果から、教育者側・学生側個々の課題および次年度への教育示唆を以下に設問No.毎に述べる。

##### (1) 設問Ⅲ-1 (基本的看護の概念の説明)

学生にとって、ある概念について正確に説明をする能力が養われていないということが明らかになった。教員は今後あらゆるカリキュラムの過程でその能力を引き出せるような努力をし、学生にそのことを引き続き刺激し続ける責務があると考え。学生は、理論を学ぶ際の「基本原理を確実に身に付ける必要性」、それも単なる暗記ではなく理解することの重要性を知る必要がある。それは今後、自ら考えて看護過程の展開を行なうという場面でも重要な学修となる。

##### (2) 設問Ⅲ-2 (基本的欲求と基本的看護の関係の言及)

対象の基本的欲求を、充足か否かを見出して自らが行なう基本的看護を決定していくというプロセスは看護過程の展開の重要な基盤となる部分である。基本的欲求と基本的看護の関係について、概念上正しく理解している学生が3割強であるということは、今後の看護過程の展開の学修プロセスでその都度正しい概念理解を反復しながら進めることが必要であるといえる。

又、問われていることへの理解力、伝える手段(日本語の知識や文章能力)に関する能力の現実もこの結果からみることができた。今後の教育の中で、これらの能力が高まるような働きかけを行なう機会を意識的に作る必要がある。

##### (3) 設問Ⅲ-3 (基本的看護の構成要素)

概念についての説明、2つの概念の関係について述べる、など得点率の低かった設問Ⅲ-1、2と比較するとこの項目の得点率は高い。その理由は設問が「基本的看護の構成要素を挙げる」というシンプルで学生にわかり易かったことが考えられる。設問Ⅲ-1、2の結果とこの結果を合わせると、「構成要素を挙げる」という単純な記述に比して「概念を説明する」という一段階上の能力を必要とする記述に関して得点率が低かったということがいえる。このことは、今後の教育において抽象概念の理解には時間をかけて学生の理解を確認しながら進めることが必要であるということになる。

## 5. 基本的欲求の充足(設問4) 自己点検評価者 金子道子

### 1) 設問4「基本的欲求の充足」に関する得点結果

「基本的欲求の充足」に関する設問の詳細と、設問の配点と、各設問における結果とその出題の意図は表6にまとめた。

表6 設問4「基本的欲求の充足」に関する得点結果

出題No.	設問	満点	得点と人数 (左側：得点 右側：人数)	出題の意図及び配点への考慮点
IV-1	基本的欲求に影響を与える事項を2つ挙げ、各事項の具体的要素を書きなさい。	6	6 - 42 5 - 7 4 - 6 3 - 1 2 - 2 1 - 0 0 - 4	①このことは、ヘンダーソン看護論における看護過程展開の方法論で、看護問題のアセスメント（看護診断）の理解を問うものである。 ②ヘンダーソン理解論で常在条件、病理的状态が理解されていること。 ③これは、IV-5の事例で応用活用する基本。
IV-2	基本的欲求の充足に関して専門的に判断（診断）するのは誰ですか。	3	3 - 54 1 - 4 0 - 4	①このことは、問題。と関連し、Ns自身=学生自身と理解し、今後の学修動機づけとした。
IV-3	基本的欲求の充足に関して判断するために情報が必要です。何に関する情報が必要か。3項目挙げなさい。	9	9 - 57 6 - 2 3 - 1 0 - 2	①3カテゴリーの情報を用い、情報解釈のもとに看護診断することが理解されているか。 ②3カテゴリーは、ヘンダーソン看護論の理論枠に基づくことの理解 ③個人情報故に個別の看護診断ができることがわかっているか。
IV-4	上記設問1、2、3に関して、ヘンダーソンは「看護の基本となるもの」の中で根拠となる考え方を表で示しています。その表は本の何ページにあるどの表か答えなさい。	3	3 - 61 0 - 1	①ヘンダーソンの理論枠から前問1、2、3の看護診断方法論がでてくることの根拠をヘンダーソン看護論の中に示すことができるかどうか。
IV-5	「看護論と看護過程の展開におけるP44の「筋萎縮性側索硬化患者の看護」の事例について答えてください。	14		この設問は、前問1、2、3、4の事例への応用と問うものである。
1)	Aさんの基本的欲求の充足に関して判断するために必要な情報を収集しています。それらの情報は、どこにまとめられていますか。まとめた表名全部を答えてください。	(2)	2 - 52 1.5 - 3 1 - 1 0.5 - 5 0 - 1	①IV-3について、実際の事例で理解できているか。
2)	基本的欲求の充足の判断の際、情報を活用するために必ずしておくことがあります。授業で教えたことをヒントに答えてください。	(2)	2 - 19 1 - 10 0.5 - 1 0 - 32	①主としてIV-3について授業で教えたことがわかっているかどうかを問うもの ②授業で教えたことが回答に記されているかどうか。
3)	Aさんの常時存在する条件に関する情報は、P45、表1-1「基本的欲求に影響を及ぼす常時存在する条件に関する情報」にまとめられています。さらに、それらの情報解釈は、プリント資料で講義しました。表と資料による解釈から、あなたが学んだBest3を書いてください。	(10)	10 - 24 9 - 9 8 - 10 7 - 8 6 - 7 5 - 3 4 - 0 3 - 0 2 - 0 1 - 1	①情報解釈には、常在条件、病理的状态、基本的欲求に関する多岐に亘る知識と思考能力が必要で、学生自らが学べたことを自力でまとめることを課した。 ②学生自らが学べたことをまとめることが、学生の学修成果をみることができる。



## 1) 得点から明確になった学修到達度

「基本的欲求に影響を与える常在条件・病理的状态とその具体的要素」(設問5-1)の問題に関して得られた得点結果から、各問題毎に学生の学修到達度を明確にすると、次のことが言える。

## (1) 設問4-1「基本的欲求に影響を与える常在条件と病理的状态とその具体的要素」

- ①常在条件・病理的状态の2つを挙げ、それぞれの具体的事項が正確に6点満点解答されていた者が62名中42名、68% (42/62) であった。
- ②病理的状态の具体的要素が不完全である場合はマイナス1点を減点し、5点となっている。7名が5点で、6点の42名と合わせると49名となり、79% (42/62) がほぼ理解できているとみてよい。
- ③ヘンダーソンの枠組とそれを現在の日本の医療状況に適用した枠組の両方を教えた。その何れを書いても正解とした。
- ④4点、3点は、病理的状态の具体的記載が不完全で、看護で取上げなければならない事項が完全に取上げられていない。また、具体的事項を挙げずに、「病理的状态とは」の説明をしている。仮に説明できても、具体的に観察して、基本的欲求の充足を診断するには知っておかなければならない事項であるから、2点以上の減点をした。
- ⑤常在条件4項目のうち、2項目を挙げて、それに説明を加えている解答は2点で、2名いた。
- ⑥解答しないものが1名、或いは書いてあっても設問に対する解答ではないものが3名おり、これらは0点である。これら4名は講義内容の理解ができていないうえに、復習による理解もできていない。

## (2) 設問4-2「基本的欲求の充足に関する専門的診断者」

- ①54/62 (87%) が専門職Nsができる独自の診断は何かを理解できている。
- ②3点得点者は専門職である看護師、さらにその看護師を目指す自分を併記をしている者が多かった。ただし、看護師のみを記した者に対しても3点を与えた。
- ③1点の4名は自分自身であると答えた。自分が何を目指してそれを行うか、すなわち「看護師」であることが明記されていない回答は1点とした。
- ④無解答者は4名で、ケアレスミスか、或いは他の解答と関連させると理解できておらず、記していないとみた。努力して理解する姿勢が回答から伺えなかった。

## (3) 設問4-3「基本的欲求の充足判断に必要な3つの情報群」

- ①14の基本的欲求の情報群、それに影響を及ぼす常在条件及び病理的状态に関する情報群の正解が94% (58/62) で、よく理解できていたと云える。
- ②6点、3点の3名は3群のうち、基本的欲求の群、常在条件の群が解答できていなかった。
- ③全く解答できなかった2名は、基本的欲求の3つの特質と常在条件からの3つの情報を挙げていた。
- ④基本的欲求の充足と専門的に判断し援助する基礎的学修に情報収集の基本に関わることの理解はほぼ学修されたとみてとれる。

## (4) 設問4-4「基本的欲求の充足に関する判断の根拠となる理論の指摘」

- ① 62名中61名が正解。
- ② 1名のみ記載なし。他の解答も空欄であり、全体が理解できていないこと、復習して学修しようとする意欲が認められないことが懸念される。

## (5) 設問4-5「看護診断方法の事例応用」

## ① Aさんの看護診断のために必要な情報収集

- ① 正解の3表名（「基本的欲求の情報」、基本的欲求に影響を与える「常在条件」「病理的状态」の情報）が記されていた者が52/62（84%）であった。その中には表番号づけて表名が書かれている者が半数あった。表番号と表名は関連性があり、収集した情報整理を意図的に行ううえで、表番号をつけることを教授したことを踏まえて書いたものと考えられる。
- ② 15点は3名であり、3表名のうち2表名しか書かれておらず、必要情報群が完全には理解されていないとみることができる。
- ③ 0.5点は5名であり、3表名中1表名のみが正解で、他の表名は設問に対して応えている表ではなかった。5名については、設問4-3の一般論が理解されていないこと、そのAさんへの応用についても理解されていないとみることができる。
- ④ 0点の1名は、看護診断のプロセスについて記してあった。設問4-3の一般論は9点で理解されていたので、Aさんへの一般論の応用が理解できていないとみる。
- ⑤ 個別な情報収集と情報整理について完全に理解できているのは84%で、実習で単独に応用実践させるためには、残り16%の者に対し補完教育が必要となる。

## ② 情報活用の際必ずしておく情報解釈

- ① 情報解釈であると正解した2点満点者は31%（19/62）であった。情報解釈に関して19名のうち16名は次のことが付け加えられていた。

- ・ 解釈の方法として、単一情報・単一解釈から複数情報・複合解釈へ
- ・ 情報解釈に必要な疾病に関する医学的・看護的知識
- ・ 解釈の方法としての知識を活用した推論の仕方
- ・ 情報の解釈のプロセス
- ・ 看護診断のための前段階としての情報解釈

以上のことはテキストには記載されていない講義の中で強調したことであった。

- ② 1点を得点した者は10名いた。10名の記述した内容は次のことである。
  - ・ Aさんの疾患「筋萎縮性側索硬化症」など医学的な専門知識を学んでおくこと
  - ・ 基本的欲求に疾患や常在条件がどのような影響を与えているかを考えること
 以上のことは情報解釈にとって必要なことであり、且つ情報を如何に活用するかについて述べられたことであるから、1点を配点した。
- ③ 0.5点得点者は1名で、情報の整理をすると記されていた。
- ④ 得点0者は62名中32名、52%に及んでいる。
- ⑤ 32名の誤答で最も多かったのは「看護診断」で24名いた。看護診断は情報活用して行う看護問題のアセスメントであって、情報の活用のために前段階として行う思考ではないので正解としなかった。
- ⑥ 不正解者の「看護診断」以外の解答として次のことが記されていた。

- ・情報の必要性      ・情報の守秘義務      ・看護問題アセスメントの方法
- ・情報表記の仕方      ・信頼関係を結ぶ

以上は情報収集と活用に関連させて講義したことで、解答していることは正論であるが、情報収集－情報整理－情報解釈－情報活用の一連のプロセスと順序だてて、教授した情報解釈であり、解釈結果の応用、活用であることから、情報解釈の意義と活用についての正解から除外した。

⑦情報解釈は具体的に時間をかけて教授したことであった。が、具体的に演習したことが、どのような意義があり、どのような方法で行ったかを纏められていない学生が半数いたことが判明した。

### ⑧情報収集と情報解釈から学んだことベスト3

<採点基準>

- ①学んだこと Best 1、Best 2、Best 3に与えたテーマと、テーマについて学んだことが、表現されているか否かで採点した。その一致がみられている記述には6点を与えた。
- ②テーマについて述べられている内容が講義等の復習で深められている記述には Best 1、Best 2、Best 3各1点を加算した。
- ③記述されている内容が、設問4－5の1～3と関連させて述べられている場合には総合得点として1点加算した。
- ④上記①～③全部が充たされていれば、満点の10点である。
- ⑤学びのテーマとして取上げたもので、教育側からみた重要度は採点の基準とはせず、学生自身の学びとしてのテーマ化とそのテーマに対する内容で採点した。

<採点結果>

- ⑥上記採点基準で10点満点を得点した者は24名(39%)であった。
- ⑦6点から9点までの得点者は32名で、10点得点者と合わせると58名(94%)であった。
- ⑧10点得点者は、上記の採点基準を満たし、事例の常在条件に関する情報収集・情報整理・情報解釈・情報記録等から学んだことをテーマ化し、それについて学んだことを具体的に記述できていた。
- ⑨9点から6点までの得点者は、上記の採点基準のいずれかに達せられず減点された。また事例の常在条件の情報収集・情報整理・情報解釈・情報記録等には触れているものの、テーマと説明の内容が一致していないものや、説明が浅くて学んだことを十分に説明し切れず減点した。
- ⑩5点であった3名については常在条件の情報について設問しているにも拘らず、Aさんの罹患しているALSの病理的状态についての学びだけで、常在条件にふれていないことから、合格点の6割を切る5点とした。関心はALSに集中していたと考えられるが、問われていることに対応していないことが欠点に繋がった。
- ⑪1点の得点者は学んだことのベスト1、2、3は記述されていた。しかし、学んだことのタイトル、それに対する説明に関連性がなく、説明も講義等の内容を殆ど反映していなかった。まず、問われていることが理解できず、「説明」が説明になっていないことが伺えた。講義の中で理解が一定レベルに達していないと、復習が不足で、従って設問にも応えられない状況であったと考えられる。
- ⑫学んだベスト1のテーマは、大別して3カテゴリーに分けられる。

3 カテゴリーとそのサブカテゴリーと、それらを取上げた学生数は次の通りである。

- |                  |                                   |
|------------------|-----------------------------------|
| a 情報カテゴリー (21)   | c ALS・自尊感情・支援・倫理・記録<br>カテゴリー (23) |
| 情報収集 (5)         | ALS疾患 (7)                         |
| 情報解釈 (7)         | 自尊感情 (5)                          |
| 情報解釈の仕方 (9)      | (夫の)支援 (3)                        |
| b 常在条件カテゴリー (15) | 倫理・記録 (8)                         |
| 基本的知的能力 (4)      |                                   |
| 特記事項 (4)         |                                   |
| 個人情報 (3)         |                                   |
| 気質情報状態 (3)       |                                   |
| 社会的文化的状態 (1)     |                                   |

学んだことベスト1で、学生が取上げたテーマから次のことが考察できる。

- ①Aさんの常在条件に関する情報・情報解釈・病理的状态との関連及びAさんを支援する夫の存在やAさん自身の自尊感情等に学びのテーマがあった。
- ②上記①のことは講義において重要な中心テーマであった。
- ③問題4-5で意図しているヘンダーソン看護論の実際の事例への応用は、学生が取上げたテーマとその説明を分析する限りにおいては、到達し得たと判断できる。ただし、テーマの説明については10得点者が24名であったことから、教育者側の期待するレベルにまでは到っていない。

- 3) 学修到達度から考察される学生・教育者側の課題と次年度教育への反映 (自己点検評価)  
授業を行った金子が試験を行い、その結果を分析することは日常的なことではあるが、学修到達度から、学生・教員双方の課題を考察し、次年度の教育に反映させることは、自己点検評価の基本である。ここでは、自己点検評価として学生の学修到達度の測定から質の評価を行うこととした。

#### (1) 学生の課題

##### ①学期終了時における学生の修熟度

今回は前期授業終了時の試験期間に行ったテストではなく、1ヵ月後に提出させたレポート形式の筆記試験であった。1ヶ月の準備期間に、試験問題を復習して修熟度をより高めるためにこの方法を採用した。

講義で教えたことを講義終了時に試験する従来の考え方では、学生の学修到達度が低いことが予測されたので、修熟度を高めるために採択した試験方法である。

学生の得点状況からみて8割から10割の学生が到達したとみることができる学習課題に次のことが挙げられる。

- ・「基本的欲求に影響を与える常在条件・病理的状态とその具体的要素」
- ・「基本的欲求の充足に関する専門的診断者」
- ・「基本的欲求の充足判断に必要な2つの情報群」
- ・「基本的欲求の充足に関する判断の根拠となる理論の指摘」
- ・「Aさんの看護診断のために必要な情報収集」(看護診断方法の事例応用)

以上の事項は講義でも重点的に教授し、習熟度も高めることを狙った事項である。

毎回の講義時に行った学生の理解度の調査や授業時の反応及び感想から、講義終了時に習熟度を評定することは難しいと考えた。10年来、看護系の短期大学或いは大学の1年次学生に、同じ教材で、難しいといわれている看護論と、その実践応用を教育してきた筆者は、松本看護短期大学看護学科第1回生の1年生を対象に、看護論の教育と「学生全員が理解できる」ことをモットーとして教育工夫を重ねてきたが、そこでテストには1ヶ月の復習の猶予期間を与えることを試みた。その結果、上記の事項については8割から10割の学生が修熟できたとみなすことができる。このことは、学生が、教育側が期待する修熟度に到達するためには、主体的な復習が必要であるということを示している。松本短期大学第1回生1年生の学修能力レベルを具体的に示す指標としての「修熟度」と受け止めなければならない。

#### ②講義で動機づけられた看護論を学ぶ必要性

講義で学生に看護論を学ぶ必要性を随所に入れ、学修動機づけを行ってきた。その象徴的質問が問題4-2「基本的欲求の充足に関する専門的診断者」であった。これは100%答えられている。当該授業の学修動機づけが実って、学修成果が得られたと評価できる。また、レポート課題の最後に自由記載で評価点には算入しない、学生からの意見の中に、看護論を学ぶ大変さと同時にその有意義性が多く述べられていた。大学全体で行っている学生自身による自己点検評価（Voice）の結果も参考になる。

残る課題は学生の理解度である。理解度にはいくつかの問題点が残された。

#### ③学生の理解度に関する課題

学生の理解度が最も低かったのは問題4-5-2「情報活用の際必ずしておく情報解釈」である。

その分析結果は、前項2) 得点結果から明確になった学修到達度で示した通りである。

情報解釈と看護診断とは別のことであって、看護診断のために情報解釈をしておく必要がある。そのことへの理解が半数の学生ができていなかった。

教員としては十分に教育したつもりでいたが、実際には学生は理解していなかった。学生側の課題でもあるが、教授法の課題でもある。

#### ④低得点者の課題

基本的欲求に関する問題で低得点者は約1割いた（35点満点のうち20点以下）。低得点者に共通することとして次のことが言える。

- ・重要な事項を2つ、3つと言うようにヒントを与えているにも拘らず、ヒントを活かせず間違った解答をしている。重要事項の理解ができていない。しかも教材総てを復習し、応える努力にも欠ける状況がみられた。
- ・十分に理解せずに、中途半端な理解に終始している。主体的学修をすすめ、レポート試験を書くために、学生相互の研鑽も認めていたので、全員が完全な正解をすることも可能であったが、そこまでには到っていない状況があった。
- ・基本と応用の結びつきが理解できていない。問題が基本と応用とを問うことで作成されているが、解答からみると一方が正解であっても、他方が間違っていて、基本と応用との結びつきが判っていない。
- ・総合的には講義内容の理解が、部分的であったり、不明確・曖昧であったり、重

要概念や基本事項が理解されていなかったり、思考能力の低さがあって、理解出来なかった様相が試験の解答の中に散見された。このことは同時に教育側の課題でもある。

#### ⑤高得点者の課題

35点満点のうち32点以上の高得点者が24名いた。

設問に対し完全に答えられていたこと、また説明の内容が資料、講義内容を反映していること、総合的理解ができていることが高得点に繋がっている。日常の受講姿勢もよく、理解力を高めていることがレポートから伺えた。高得点者の能力向上に寄与することも教育側の重要な課題となる。

### (2) 教育側の課題

#### ①能力格差への対応

本年度4月から同一授業を行ったが、結果として得点格差が著しかった。

教育照準は全員が総合点で6割をクリアすることに合わせた。それ相応の成果は取めたが、高得点者と低得点者との間には明確な能力格差があった。

分析の結果、学修の動機づけと学び方の修得には格差がなかったが、何をどの程度理解したかについての格差が著しい結果となった。学生の基礎能力格差が反映しているものと思われるが、基礎能力の格差があることを前提に新しい知見をどう教育するかという難しい課題を突きつけられている。

それには教育内容、教育姿勢、教材、教育技法の総合的授業改善が必要であることは承知しているが、この度の結果から次のことが言える。

①能力格差があっても全員が看護理論を学ぶ動機づけをもって学修している。

②看護理論を学ぶに必要な基礎能力、例えば国語力、論理的思考能力の不足は授業の中では補充し得ない。看護理論の理解能力の格差が生じる前に、その補充をする必要がある。

③看護理論理解能力に関する格差には、学生側の課題が多く、それは前項(1)学生の課題で検討した。

教育側の課題として低得点者への対応が大きい。一方で、教育側としては、中間層、高得点者への対応も視野に入れておく必要がある。所謂トリプルスタンダードの考え方である。このことを以って、授業改善に取り組む必要がある。

#### ②低得点者への授業改善

低得点者の課題で検討したように、低得点者には教育内容の中で重要概念や理解しておく必要のある知識、基本的欲求野充足の範囲の中では基本となる考え方、事例のAさんへの応用の仕方など、エッセンシャル・ミニマムの知見をより丁寧にまとめ、理解しやすく総括し、教授する必要がある。

実際には、そのことを教材の中で示して総括し、講義では教材にある纏めに、更に付け加えて行く方法を採用した。

高得点者には、それが学修に活かされ、学生自身の知見となって、修得されたことが証明されたが、低得点者には理解されていなかった。低得点者にも理解し得る教材の開発をしなければならない。

#### ③教育者側の熱意と学生の学修エネルギー

個人的な取り組みではあるが、松本短期大学看護学科第1回生1年次前期の看護理論

の授業展開を行うに当たって、今までの教員生活の中で、一番熱く、一人の落伍者も出さずにと頑張った。

このことは、能力の高低に関係なく、全員に学修へのエネルギーとして伝わっている。

能力格差を縮小するエネルギーは学生自身の学修へのエネルギーであり、そのエネルギーの一部を教員は自分自身の中に教育への熱意として貯え、燃焼させて、学生に伝導させている。そのことに身を以って体験した授業展開であった。

学生の学修成果が客観的な基準に達していない場合には単位認定はできない。しかし、そこに到るまで、学生・教員が学修エネルギーを燃焼し、如何に学生の理解度を高めるかが重要な課題となる。それは、教育内容・教材・教授法の改善であろう。

今回はそれらの一部しか見極められていない。もっとも、次年度に向けて教員は熱意を維持しつつ、そして学生は全員が学修エネルギーを貯えて、低得点者の層を減少させたい。

## 6. 自己点検評価と同僚評価

自己点検評価と同僚評価とを同時に試行した教育成果評価を行った結果、自己点検評価と同僚評価の共通点および相違点についていくつか知見が得られたので以下に考察する。

### 1) 自己点検評価と同僚評価の同一化から得られたピアレビューの方法

自己点検評価者である金子と、島田、渡辺、葛西の3名の同僚評価者は、同一の模範解答と出題の意図及び採点基準を共有し、学生の学修成果を測定した。評価基準を同一化して点検評価する自己－同僚点検評価の一手法を会得し、また論文作成することで確立することができた。

### 2) 教育実態の把握の仕方の相違

金子の行った自己点検評価と、他の3教員が行った同僚評価の大きな相違点は、教育の実態の認知の仕方である。金子は、自分で教えそれを基底に問題作成し、自己基準で採点評価してその結果、この研究において質の点検をおこなった。さらに詳述すると、実際に学生に教えるまでの経緯で、どういう準備をし、教材の教育研究をしたうえで、教育方法を工夫して教えるにいたったのか、つまり教えることにまつわる周辺領域の全ての事項を認識実行してきた結果の出題の意図であり配点への考慮点があった。一方、同僚評価を行った他の教員は、自己点検評価者である金子が教えたことに相当する模範解答と採点基準および出題意図等を拠り所として、学生の学習成果の背景にある実態を分析し、今後の教育示唆を述べた。採点基準や出題意図との比較によって言えることのみ限定して学習の成果をとらえ、今後の教育への示唆を述べているのである。そういう教育の実態の認知の仕方が自己点検評価者と同僚評価者との決定的な相違点である。

これは、同僚評価者の客観性の特長でもあり、同時に限界ともいえる。

### 3) 学生の学修習熟度の見方における視点の違い

概念の説明などの設問において、同僚評価者は、「説明が稚拙である、概念が理解できていない」というように、ある到達度から一定の水準に達していないという見方をしていた。一方、自己評価者は、学生の学修初段階0の時点からの経緯を知っているため、0から出発して今何が学習できたのかと言う点の評価が可能である。教育の実態の認知の仕方の違いから、たとえ稚拙な表現であっても学生がわかっている（わかりつつある）と判断できる

のである。ひとつの学習成果を、0からどう伸びて、のびきれていないとみるか、単純に到達目標に達していないと判断するかという視点の違いはしかし、自己点検評価と同僚評価の決定的な違いではなく、時に同僚評価にも取り入れていく必要があるし、それが可能であると考えられる。

## 7. 結語

期末試験採点結果を同一評価基準を用いて、教授主体者の自己点検評価と同僚評価を行った。その結果、教授主体者の教育意図・教育内容・教育成果は、同僚評価者と共有することができた。

また、自己点検-同僚評価の両者が、評価視点・評価方法・評価結果を同一化することで、ピアレビューの意義の確認と、一方法の会得もできた。

自己点検評価-同僚評価の初歩的段階の研究であるが、今後も更に発展的に取り組みたい。

### 看護理論 I (ヘンダーソン看護論) の教材

1. ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯槇ます他訳 看護の基本となるもの 看護協会出版会 改訂版 1995
2. 金子道子編著 看護論と看護過程の展開 照林社 1999
3. 湯槇ます監 ナイチンゲール著作集 第2巻 現代社 1974
4. 金子道子他編 看護学大系1 看護とは 看護協会出版会第2版 2004
5. 日本看護協会 看護業務基準集 看護協会出版会 第3版 2005
6. 「ヘンダーソンの看護論と看護過程データベース」 全5ページ (金子道子作成)
7. ALS A氏の常在条件および病理的状态に関する情報解釈一覧 全10ページ (金子道子作成)
8. 「筋萎縮性側索硬化症 概念, 疫学, 病態, 症状, 検査, 診断, 経過・予後, 治療」 医学書院

### 参考文献

1. 舟島なをみ他; 看護教育における自己評価の意義と課題-教授活動に焦点をあてて- 看護展望 28 (5) 17 - 22 2003
2. 小島恵子他; ヘンダーソンの看護論を取り入れた看護過程教育 ナースエデュケーション 14 (6) 129 - 137 2003
3. 村松淳子; 「教員相互による授業評価」によるFD - 自らの授業を振り返り, 新たな授業を展開するためのシステム 看護展望 31 24?30 2003
4. 中谷啓子; 看護学教育における講義の自己評価と改善の実際 看護展望 28 (5) 30 - 35 2003
5. 和賀徳子; 自己点検・自己評価のさらなる推進による看護教育の改善 看護展望 30 (4) 17 - 22 2005



## 資料1 完全な解答

18年度1年生前期試験 看護理論I レポート課題 担当 金子 道子  
学籍番号 氏名

I ヘンダーソン看護論「看護の基本となるもの」における、看護目的論について説明しなさい。(20)

1 「看護の基本となるもの」の本の中で、看護目的論について述べている本文を抜き書きしなさい。本文の書かれているところ 第1章 (11) ページ

「看護婦の独自の機能は、病人であれ健康人であれ各人が、健康あるいは健康の回復（あるいは平和な死）に資するような行動をするのと援助することである。その人が必要なだけの体力と意思力と知識とをもっていれば、これらの行動は、他者の援助を得なくて可能であろう。この援助は、その人ができるだけ早く自立できるようにしむけるやり方で行う。」

2 ヘンダーソンの述べている看護目的論について①講義②解説書「看護論と看護過程の展開」③講義関連配布資料（プリント）④その他参考文献を活用して具体的にどういうことか説明しなさい。

1) 専門職「看護」独自の機能

健康の維持増進・健康の回復・安らかな死（すなわち健康のすべてのレベルにおいて）に資するよう、その人が自分の基本的欲求を可能な限り自力で充足できるように、その人を援助する。その援助は基本的看護と概念化されている。

2) 健康の概念と看護の概念

・疾病を持つ病人には、疾病の回復、疾病との共存、平和な死にむけ、その人の基本的欲求の充足を助ける。  
・疾病のない人には、健康の維持増進のために、その人の基本的欲求の充足を助ける。

3) 自立の概念

・その人が可能な限り自力で基本的欲求を充足している状態が最高の自立。  
・体力、意思力、知識の不足があっても、他者に援助を求め、感謝できるのも自立とみる。

II 「看護の基本となるもの」では、看護の対象である人間を、どうとらえているか説明しなさい。(30)

1 ヘンダーソンは、「人間を『14の基本的欲求』をもって生活している」ととらえています。14の基本的欲求はどのような欲求か、説明しなさい。

1) 基本的欲求とは、人間が生命体として生き、社会生活を営み、終生成長、発達をとげるのに最小不可欠な欲求。

2) 基本的欲求の性質

①万人に共通

14の基本的欲求が万人に共通してある。理由は生命体として生き、社会生活を営み、終生成長発達をとげることは万人に共通するから。

②千差万別

個人個人の基本的欲求のあり方は千差万別である。理由は、常在条件、病理的状态が千差万別であるから。加えて基本的欲求の影響因子は、常在条件と病理的状态である。

### ③無限に変容

同一人であっても基本的欲求は無限に変容する。理由は、同一人であっても常在条件、病理的状态は無限に変容するから。加えて基本的欲求の影響因子は、常在条件と病理的状态である。

2 14の基本的欲求の1つ1つをヘンダーソンと同じ順番で挙げ、それぞれをスペース内で説明しなさい。

1) 欲求：正常に呼吸する。

説明：呼吸に関する外的要因（姿勢、衣服、自然環境、外気、室内環境、外部刺激）と呼吸に関する解剖学的構造と生理学的機能（気道の確保、肺胞のガス交換、胸膜腔の肺胞保護や呼吸運動の補助、肋間筋や横隔膜の呼吸運動等）のコントロールをする。

2) 欲求：適切に飲食する。

説明：食物を得る（食品のバランス、必要エネルギー、嗜好、安全性を考慮した食材を用意し、調理する。）、摂食行動がとれる、消化吸收、排泄機能（咀嚼、嚥下、胃小腸での消化代謝機能、大腸、肛門での吸収排泄機能）を適切に行える。

3) 欲求：あらゆる排泄経路から排泄する。

説明：尿、便、発汗の排泄器の解剖学的構造と生理学的機能をうまく調整して、外部の排泄環境を整えることができる。発達段階に応じた排泄行動がとれる。

4) 欲求：身体を位置を動かし、また良い姿勢を保持する。（歩く、すわる、寝る、これらのうちあるものを他のものへと換える。）

説明：身体のパフォーマンスのもとに、歩く、すわる、寝るの姿勢のバランスを保持し、日常の生活動作が円滑にとれるように調整していく。

5) 欲求：睡眠と休息をとる。

説明：睡眠と休息のバランスを保持し、個人の生活労作に応じた睡眠と心身の休息をはかる。

6) 欲求：適切な衣服を選び、着脱する。

説明：体温調整、環境からの危険回避、気候、場所、美意識をふまえ、かつ自己主張のできる衣服を選び、うまく着脱する。健康退脱時にもそれができる。

7) 欲求：衣服の調節と環境の調整により、体温を生理的範囲内に維持する。

説明：体温が、正常範囲に保持できるように、衣服と環境の外気温、湿度に応じて材質や形、枚数を選ぶことができる。

8) 欲求：身体を清潔に保ち、身だしなみを整え、皮膚を保護する。

説明：身体を清潔にして、循環を促進し、清潔な衣服で身だしなみを整え、皮膚からの感染を防止し、全身の清潔を保持する。

9) 欲求：環境のさまざまな危険因子を避け、また他者を傷害しないようにする。

説明：人的、物的環境にあるさまざまな危険因子（感染、疾病、心身の障害等の因子）

を避けようと努力、実行する力と他者を傷害することを自制抑止できる力

- 10) 欲求：自分の感情、欲求、恐怖あるいは“気分”を表現して、他者とのコミュニケーションをもつ。  
説明：自分の感情、欲求、恐怖、気分を自己表現して、他者との円滑なコミュニケーションがとれるか。
- 11) 欲求：自分の信仰に従って礼拝する。  
説明：これは、自分の信仰とそれに従った礼拝であるか、拡大解釈すると自分の価値観に従って自己表現をはかっていく欲求である。
- 12) 欲求：達成感をもたらすような仕事をする。  
説明：仕事とは、発達年齢に応じた仕事で、仕事をすることによって達成感が味わえるように、仕事を遂行する欲求である。
- 13) 欲求：遊びあるいはさまざまな種類のレクリエーションに参加する。  
説明：発達段階に応じた遊び、レクリエーションに参加して、自分自身の生活や精神の再生をはかる。
- 14) 欲求：“正常”な発達及び健康を導くような学習をし、発見をしあるいは好奇心を満足させる。  
説明：さまざまな学習をすることによって、年齢に応じた発達をし、それが健康な生活を送りその人の好奇心を満足させることができる欲求。

### Ⅲ 基本的看護について説明しなさい。(15)

- 1 「基本的看護とは」、基本的看護の概念について①講義 ②「看護論と看護過程の展開」③講義資料その他を活用して説明しなさい。
  - 1) 基本的看護は、健康の維持・増進、健康の回復、安らかな死のために行う。
  - 2) 本的看護は、その人が自分の基本的欲求を可能な限り自力で充足できるような方向性で行う。
  - 3) 基本的看護は、自力で充足できない基本的欲求の未充足の部分を看護師がその人になりかわって充足させるために行う。
  - 4) 基本的看護を行うことにおいて、看護師は専門職である。
- 2 基本的欲求と基本的看護との関係について述べなさい。
  - 1) 基本的欲求の未充足の状態に対して、基本的看護が行われる。
  - 2) 14の基本的欲求があるので、従って基本的看護も14で構成される。
  - 3) Ptの基本的欲求とNsの行う基本的看護で、患者—看護師関係が成立する。
- 3 基本的看護の構成要素を挙げなさい。
  - 1) 患者の呼吸を助ける。
  - 2) 患者の飲食を助ける。
  - 3) 患者の排泄を助ける。
  - 4) 歩行時及び座位、臥位に際して患者が望ましい姿勢を保持できるように助ける。また、患者がひとつの体位からほかの体位へと身体を動かすのを助ける。

- 5) 患者の休息と睡眠を助ける。
- 6) 患者が衣類を選択し、着脱を助ける。
- 7) 患者が体温を正常範囲に保つのを助ける。
- 8) 患者が身体を清潔に保ち、身だしなみよく、また皮膚の保護を助ける。
- 9) 患者の危険を回避し、他に危険を与えないようにする。
- 10) 患者の意思伝達や自分の欲求、気持ちの表現を助ける。
- 11) 患者が、自分の価値観に従って、自己表現するのを助ける。
- 12) 患者の生産的な活動あるいは職業を助ける。
- 13) 患者のレクリエーション活動を助ける。
- 14) 患者が学習するのを助ける。

#### IV 基本的欲求の充足について説明しなさい。(25)

- 1 基本的欲求に影響を与える事項を2つ挙げ、各事項の具体的要素を書きなさい。(6)

①事項：常時存在する条件

具体的要素：①年齢、家族その他の個人情報 ②気質、情動状態 ③社会的・文化的状態 ④身体的・知的能力

②事項：病理的状态

具体的要素：①疾患名 ②既往症 ③主訴 ④現病歴 ⑤疾患病態生理 ⑥臨床症状の所見 ⑦治療方針 ⑧治療の実際 ⑨病状説明 ⑩患者の疾病理解、疾病受容

あるいは次の項目でもよい。

- ①飢餓状態、致命的嘔吐、下痢を含む水及び電解質の著しい閉障害
- ②急性酸素欠乏状態 ③ショック ④意識障害（気絶、昏睡、せん妄）
- ⑤異常な体温をもたらすような温熱環境にさらされる。 ⑥急性発熱状態
- ⑦局所的外傷、創傷あるいは感染 ⑧伝染性疾患状態 ⑨手術前状態
- ⑩手術後状態 ⑪疾病による治療上指示された動けない状態
- ⑫持続性ないし難持性の疼痛

- 2 基本的充足に関して、専門的に判断する（診断）するのは誰ですか。(3)

看護師＝看護学生自分自身

- 3 基本的充足に関して、情報が必要です。何に関する情報が必要か、3項目挙げなさい。(9)

①常時存在する条件

②病理的状态

③14の基本的欲求

- 4 上記、1、2、3に関して、ヘンダーソンは、「看護の基本となるもの」の中で、根拠となる考え方を表で示しています。その表は、本の何ページにある表か、答えなさい。(3)

表名：「一般には看護婦によって満たされ、また常時ならびに時に存在する条件によって」 変容するすべての患者がもっている欲求

## 掲載ページ：P 23 表1

5 「看護論と看護過程の展開」におけるP 44の「筋萎縮性側索硬化症患者の看護」のAさんの事例について教えてください。(14)

1) Aさんの基本的欲求の充足に関して判断するために、必要な情報を収集しています。それらの情報は、どこにまとめられていますか。まとめた表名、全部を教えてください。(2)

①表I-1 「基本的欲求に影響を及ぼす常時存在する条件に関する情報」

②表I-2 「基本的欲求を変容させる病理的状态に関する情報」

③表I-3 「基本的欲求に関する情報収集及び整理」

2) 基本的欲求の充足の判断に、情報を活用するために、必ずしておくことがあります。授業で教えたことをヒントに教えてください。(2)

収集した情報の情報解釈。その際既修の知識や思考方法を駆使する。

3) Aさんの常時存在する条件に関する情報は、P 45、表I-1「基本的欲求に影響を及ぼす常時存在する条件に関する情報」にまとめられています。さらに、それらの情報解釈は、プリント資料で講義しました。表と資料による解釈から、あなたが学んだことBest 3を書いてください。(10)

・Best 1

・学んだことのタイトル「 」

・学んだことの内容：

自由記載法であるので、次のことを採点基準とした。

①学んだことのタイトルができているか。

②タイトルと学んだことの一貫性があるか。

・Best 2

・学んだことのタイトル「 」

・学んだことの内容：

③Best 1～3までの順位性は、金子側の順位と同じか、あるいは異なるか（これは考察の視点でもあるので、順位性は採点には考慮しない。）

④設問5の1)、2)、が3)の誘導となっていることから、1)、2)、3)の整合性もみる。

・Best 3

・学んだことのタイトル「 」

・学んだことの内容：

V 授業全体の感想を書いてください。ただしこれは採点の対象にはせず、これからの授業の参考にしたいと考えています。良かったこと、嬉しかったこと、悪かったこと、困ったこと、不安や不満、工夫してもらいたいことなど、何でも自由に書いてください。

①学生の自己採点評との関連でみる。

## 資料2 出題の意図及び配点への考慮点

18年度1年生前期試験 看護理論I レポート課題 担当 金子 道子  
学籍番号 氏名

I ヘンダーソン看護論「看護の基本となるもの」における、看護目的論について説明しなさい。  
(20)

1 「看護の基本となるもの」の本の中で、看護目的論について述べている本文を抜書きしなさい。本文の書かれているところ 第 章 ( ) ページ

- ①看護目的論とは、看護の目的を明文化及び論述したものであることが理解できているか。
- ②ヘンダーソン看護論における看護目的論が、原著から理解できているか。
- ③「看護目的論」という概念は、ヘンダーソン看護論には出てこないため、授業の中と「看護論と看護過程の展開」の中で解説したことが理解できているかどうか。

2 ヘンダーソンの述べている看護目的論について①講義②解説書「看護論と看護過程の展開」③講義関連配布資料（プリント）④その他参考文献を活用して具体的にどういうことか説明しなさい。

- ①前問1のことが説明できているかどうかの問
- ②看護目的論の概念的説明である。
- ③概念的説明は、講義で説明したが、簡潔に正確に説明してあるのは、③の講義配付資料（プリント）である。そこに書いてあることを正解とした。ただし、解説書にもそのことが説明されているので、それらの内容もよしとした。
- ④正解の全部が書かれることは、レベルが高度になるので、正解の一部か書いてあれば、満点を与えている。
- ⑤前項1との関連がないと思われる解答には、減点している。

II 「看護の基本となるもの」では、看護の対象である人間を、どうとらえているか説明しなさい。(30)

1 ヘンダーソンは、「人間を『14の基本的欲求』をもって生活している」ととらえています。14の基本的欲求はどのような欲求か、説明しなさい。

- ①「看護対象論とは」ということを理解できているかどうか。
- ②「14の基本的欲求」の説明が、看護対象論の説明とみなす。
- ③「基本的欲求」の概念説明が正確にできているか。
- ④基本的欲求の性質について3点あげ、さらに各々の説明がなされているか。

2 14の基本的欲求の1つ1つをヘンダーソンと同じ順番で挙げ、それぞれをスペース内で説明しなさい。

1) 欲求：

説明：

①ヘンダーソンの挙げている順番で挙げているか。

2) 欲求：

説明：

②1つ1つの欲求の説明のために イ)「看護の基本となるの」の第1章や第3章をよく読んでまとめているか。ロ)金子の解説書を読んでいるか。さらに、他を参考にしているかを期待していた。

3) 欲求：

説明：

③学習したことが、簡潔にまとめられているか。

4) 欲求：

説明：

④正解のPointがおさえられているか。

5) 欲求：

説明：

6) 欲求：

説明：

7) 欲求：

説明：

8) 欲求：

説明：

9) 欲求：

説明：

10) 欲求：

説明：

11) 欲求：

説明：

12) 欲求：

説明：

13) 欲求：

説明：

14) 欲求：

説明：

### Ⅲ 基本的看護について説明しなさい。(15)

- 1 「基本的看護とは」、基本的看護の概念について①講義 ②「看護論と看護過程の展開」  
③講義資料その他を活用して説明しなさい。

- ①問1のことが個々で再掲されてもよい。  
②正解は主としてプリントでまとめと事が書かれていればよい。  
③概念定義のみならず、包含している意味が述べられていればよい。

- 2 基本的欲求と基本的看護との関係について述べなさい。

- ①プリントでおさえた内容が述べられていることが望ましい。  
②このことは講義でも何回か教えた。ノートにまとめられていることもよい。

- 3 基本的看護の構成要素を挙げなさい。

- ①「看護の基本となるもの」第三章に述べられていることをあげる。  
②形式的にあげることもできるが、形式的であるか否かは、上の1, 2の書き方で学習の程度を推測する。

### Ⅳ 基本的欲求の充足について説明しなさい。(25)

- 1 基本的欲求に影響を与える事項を2つ挙げ、各事項の具体的要素を書きなさい。(6)

①事項：

- 具体的要素： i このことは、ヘンダーソン看護論における看護過程展開の方法論で、いわゆる看護問題のアセスメント（看護診断）についての理解を問うものである。

②事項：

- 具体的要素： ii ヘンダーソンの理論枠組として、常在条件と病理的状態の枠組が理解されていればよい。

③事項：

- 具体的要素： iii このことは、Ⅳ-5の事例で応用活用する基本である。

- 2 基本的充足に関して、専門的に判断する（診断）するのは誰ですか。(3)

- ①このことは、問題1と関連し、Ns自身＝看護学生自分自身と理解し、今後の学修動機づけとした。

- 3 基本的充足に関して、情報が必要です。何に関する情報が必要か、3項目挙げなさい。(9)



- ① i 3カテゴリーの情報を用い、情報解釈のもとに看護診断することが理解されているか。
  - ② ii 3カテゴリーは、ヘンダーソン看護論の理論枠に基づくカテゴリーであることがわかっているか。
  - ③ iii 個人情報を用いる故に、個別の看護診断ができることがわかっているか。
- 4 上記、1、2、3に関して、ヘンダーソンは。「看護の基本となるもの」の中で、根拠となる考え方を表で示しています。その表は、本の何ページにある表か、答えなさい。(3)

①ヘンダーソン看護論の理論枠から、前記1、2、3の看護診断方法論がでてくることの根拠を、ヘンダーソン看護論の中に示すことができるかどうか。

表名：

掲載ページ：

- 5 「看護論と看護過程の展開」におけるP 44の「筋萎縮性側索硬化症患者の看護」のAさんの事例について答えてください。(14)

①この設問は、前記1、2、3、4の事例への応用を問うものである。

- 1) Aさんの基本的欲求の充足に関して判断するために、必要な情報を収集しています。それらの情報は、どこにまとめられていますか。まとめた表名、全部を答えてください。(2)

①Ⅳ-3について、実際の事例で理解できているかどうか。

- 2) 基本的欲求の充足の判断に、情報を活用するために、必ずしておくことがあります。授業で教えたことをヒントに答えてください。(2)

①主としてⅣ-3について授業で教えたことがわかっているかどうかを問うもの。

②授業で教えたことが解答に出ているかどうかも重要。

- 3) Aさんの常時存在する条件に関する情報は、P 45、表Ⅰ-1「基本的欲求に影響を及ぼす常時存在する条件に関する情報」にまとめられています。さらに、それらの情報解釈は、プリント資料で講義しました。表と資料による解釈から、あなたが学んだことBest 3を書いてください。(10)

・Best 1

・学んだことのタイトル「 』

・学んだことの内容：

- ・ Best 2
  - ・ 学んだことのタイトル「     」
  - ・ 学んだことの内容：
- ①情報解釈には、多大な知識と思考能力が必要で、学生自らが学べたことを自力でまとめることを課した。
- ②学生自らが学べたことをまとめることが、学生の学修成果とみることができる。
- ・ Best 3
  - ・ 学んだことのタイトル「     」
  - ・ 学んだことの内容：

V 授業全体の感想を書いてください。ただしこれは採点の対象にはせず、これからの授業の参考にしたいと考えています。良かったこと、嬉しかったこと、悪かったこと、困ったこと、不安や不満、工夫してもらいたいことなど、何でも自由に書いてください。